

JA全農WEEKLY

3面

広がる農業労働力支援、参加相次ぐ

(広島県本部)

2面

「五郎島金時」香港へ輸出
(石川県本部)



輸出に向け決意を述べるJA金沢市五郎島さつまいも部会・酒米優次部会長(2面)

「ニッポンエール
シークワーサー」新発売(2面)



「高知県産ゆず&直七サワー」
新発売(8面)



労働力不足を補う労働力派遣を推進(3面)

2 「ニッポンエール
沖縄県産完熟シークワーサー」発売
(営業開発部)

3 「富山県春季
ミニバスケットボール大会」に協賛
(富山県本部)

4-5 令和3年度 各事業の主な取り組み(3)
耕種総合対策／施設農住事業／
耕種資材事業

6 海外拠点便り
(全農インターナショナル香港)

7 JAズームイン(福岡:JAみづま)

8 「高知県産ゆず&直七サワー」新発売
(営業開発部)

「JA全農COUNTDOWN JAPAN」
プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
JA紀南(和歌山県)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

「あおり米っせ」キャンペーン
開催中(青森県本部)

「かながわ農林水産品マッチング商談会」
を開催(神奈川県本部)

新たな方法で「岐阜いちご」の
魅力をPR(岐阜県本部)



News!



「五郎島金時」香港へ輸出

300年の伝統を持つサツマイモ海外へ

石川県本部

輸出に向け決意を述べるJA金沢市五郎島さつまいも部会・酒栄優次部会長



香港の店頭に並ぶ五郎島金時



石川県本部は、JA金沢市、全農輸出対策部、JA全農インターナショナル、全農インターナショナル香港と連携し、石川県を代表するサツマイモ「五郎島金時」の香港輸出を1月から開始しました。

加賀野菜の一つ「五郎島金時」は、石川県内をはじめ、関東や関西市場などへも出荷していますが、新たな販路として今年度から輸出に乗り出しました。JAグループ石川が県産青果物を直接輸出する取り組みは、今回が初めてとなります。

生産者からは「自信を持って出荷していく。長く続くように頑張りたい」と力強いコメントをいただきました。石川県本部は今後も生産者の手取り最大化、県産青果物の消費拡大に向けて「五郎島金時」だけでなく、その他県産青果物についても輸出に取り組んでいきます。

News!



「ニッポンエール 沖縄県産完熟シークワーサー」を発売

「ニッポンエールプロジェクト」第3弾

営業開発部



全農は2021年6月から全国の産地を応援する「ニッポンエールプロジェクト」をスタートしました。2月14日、ニッポンエールプロジェクトの第3弾商品となる「ニッポンエール 沖縄県産完熟シークワーサー」を伊藤園から発売しました。

「ニッポンエール 沖縄県産完熟シークワーサー」は、酸味が少なくまるやかで、甘酸っぱい味わいが楽しめる清涼飲料水です。シークワーサーは通常、8〜11月の緑色の時期に収穫しますが、労働力不足や天候の影響で収穫できなかった果実は、木なりのまま完熟します。完熟した果実は、酸度が落ち着き、糖度が増すことでまるやかな味に変化しますが、傷みやすいため流通・販売が困難で、ほとんどが県内での消費に留まっています。

今回、「完熟シークワーサー」という名称を前面に出し、飲料として活用することで、新たな商品価値を創出しました。発売に当たり、特設HPでは産地や生産者の想いを発信し、インターネット交流サイト(SNS)では「あぐーしゃぶしゃぶセツトとヒラミン」が当たるキャンペーンを企画しています。

今後も「ニッポンエールプロジェクト」ではさまざまな商品を通じて、全国の特徴ある農畜産物の産地を応援する取り組みを進めていきます。



詳細は
公式ホームページの
「お知らせ」を
ご覧ください





広がる農業労働力支援、参加相次ぐ

労働力不足を補う労働力派遣を推進

広島県本部

2 県民を
ゼロに



8 働きがいも
経済成長も



山口さんの作業風景(写真中央、庄原市で)

広島県北部に位置する「A庄原」では、11月から12月末まで広島県産の出荷がピークを迎えます。高校生の山口優花さん(18)は同派遣会社の紹介で、広島県産の加工・袋詰め作業に当たりました。未経験ながら、「生産の仕事に興味がある」という山口さんは、初日は作業着の着方や作業の流れなどを学び、緊張した面持ちで作業をしていましたが、「一日中立ちっぱなしで大変なところもあるが、一つのことを黙々とやる作業が好きなので、私には向いていると思う」と笑顔で話します。

農業現場での労働力不足は特に課題です。広島県本部は、一件でも多くの現場でマッチングを成立させ、農家の労働力支援につなげたいと取り組みを進めています。

広島県本部は人材派遣会社のバンケットサービス(株)をパートナー企業とし、2020年11月から農業労働力派遣への取り組みを始め、22年1月までに合計13人のマッチングを実現しています。



「富山県春季ミニバスケットボール大会」に協賛

「食」を通じて、スポーツに取り組む子どもたちを応援

富山県本部



優勝チームへ富山県産米「富富富」60kgを贈呈

本大会は3月末に東京都で行われる「第53回全国ミニバスケットボール大会」の県予選も兼ねて開催されており、選手たちは全国大会出場を目指し白熱した戦いを繰り広げました。決勝戦では、男子は「入善ミニバスケットボールスポーツ少年団」が、女子は「黒部レインボーズ」が優勝を果たし、見事全国大会への切符を手に入れました。

大会の最後に、「とやま食の王国大使ふふ」の大田梨花さんが「富富富」を紹介し、「ぜひ富富富をはじめとした富山のお米をたくさん食べて、健康な体作りをしてスポーツに励んでください」と選手たちにメッセージを送りました。

富山県本部は、第45回富山県春季ミニバスケットボール大会に協賛しました。1月30日には、富山県西部体育センターで準決勝・決勝戦が行われ、入賞したチームへ富山県産米「富富富」を贈呈しました。



全国大会出場に向け、熱戦が繰り広げられました

令和3年度

各事業の主な取り組み

第3回 耕種総合対策／施設農住事業／耕種資材事業

令和3年度に全農が各事業で展開した主な取り組みを紹介します(全5回)。

耕種総合対策部

ゆめファーム全農

3圃場が目標収量を達成

高度施設園芸推進室は、2014年から大規模多収栽培技術の確立・普及と、人材育成を目的とした「ゆめファーム全農」プロジェクトに取り組んでいます。昨夏、ゆめファーム全農3圃場全てで目標収量を達成し、国内平均を大幅に上



トマト(栃木)



ナス(高知)



キュウリ(佐賀)

回る収量を成し遂げました(栽培面積当たり、栃木「トマト」43・2トン/10ア、高知「ナス」35・0トン/10ア、佐賀「キュウリ」56・2トン/10ア)。

今後は、ゆめファーム全農を研修拠点とした人材育成および、この実証で培った、ハード・ソフト面におけるさまざまな技術とノウハウを凝縮した「ゆめファーム全農パッケージ」の普及拡大へ注力していくとともに、施設園芸の振興を図ります。

タマネギ直播栽培用
作業機を共同開発

全農・農研機構・クボタが開発した「タマネギ直播栽培用の作業機」が、内容に優れた社会的関心が高い成果として、農林水産省発表の2021年農業技術10大ニュースに選ばれました。

タマネギ直播栽培は、育苗・苗移植作業が不要となり、生産費や労働時間を削減できる技術として注目されています。この作業機は直播栽培の課題であった出芽や初期生育を改善し、水田転換畑での利用にも適しています。直播栽培に使用できる登録除草剤の近年の拡大と相まって、タマネギ直播栽培の普及拡大により、生産者手取りの向上や水田の高度利用による露地園芸の生産振興に寄与することが期待されます。



タマネギ直播栽培用の作業機

施設農住部

自らメンテナンスできる
技術を学ぶ

「共乾施設保守管理講習会」

農業共同利用施設は、収穫後の作業を集約し、機械化と共同利用による合理化で、生産者の労力軽減や荷造り調製に関わるコスト低減などの効果が期待されていますが、課題の一つに「老朽化に応じた機能維持のためのコスト負担」があります。

施設農住部では、この課題解決を支援するため「共乾施設保守管理講習会」を開催しています。「極力自らメンテナンスできる技術水準を得ること」を目的とし、JAの共乾施設担当者を対象に、保守管理に関わる取り組みの相互発表や意見交換、点検整備に関わる基本作業実習などを行っています。新型コロナ感染拡大により、昨年度に続き、今年度もWebを活用しての開催となりました。今後もJAの農業施設運営を支援する講習会の実施に取り組んでいきます。

土づくり運動の展開

全農（の前身である全購連）が昭和45（1970）年に「土づくり運動要領」を制定してから50年以上が経ちます。毎年、施肥診断技術者養成講習会を開催し、土壌分析とそれに基づく施肥改善指導を行える人材の育成に取り組んでいる他、全農広域土壌分析センター（全国9カ所）では、年間11万6千点（令和2年度実績）の土壌分析を行っています。土壌分析に基づく「適正施肥」の実践は、作物の収量・品質を保ちつつ過剰な施肥コストを抑制するきっかけになります。

令和3年度は、12月に「全国土づくり大会2021〜未来の食のために〜」を開催し、Web参加も含め2000人を超



表彰者記念撮影の様子

える方が参加しました。全国の優良事例の表彰と事例発表、3人の講師による基調講演、全農の取り組み紹介などを行いました。

土づくりの意義や価値を広く発信するためにも、この大会で紹介した優良事例や基調講演の内容について、動画投稿サイトYouTubeで発信しています。

検索方法

- ① YouTube
「全農耕種資材部」で検索
- ② 全農耕種資材部チャンネル内の再生リスト
「全国土づくり大会2021」をクリック

「JA資材店舗CS甲子園」による店舗活性化

肥料・農薬・資材を対象に、①JAならではの売り場作り・店作りによる組合員満足度向上、②早期陳列による実績拡大、③JAオリジナル品の陳列強化による競合店との差別化、④大会を通じたJAグループ内のネットワーク作りを目的に、JA資材店舗全体のレベルアップを図る大会として昨年から始まり、今年で2年目を迎えます。

前大会に参加した店舗からは、大会をきっかけに「店舗スタッフのモチベーション

向上、意識改革、POP作成技術の向上などにつながった」との声をいただきました。

この取り組みを通じて、組合員から支持されるJAならではの店舗づくりを目標に、これからもさらなるレベルアップを目指します。



大型陳列部門 優勝店舗の「JAしなね 益田グリーンセンター」

生産資材における受発注業務のシステム化の取り組み

JAグループでは、肥料・農薬など生産資材の受発注業務の改善を目的に受発注センターシステムの開発・普及に取り組んでいます。

すでに導入を進めている「JAの

WEB注文機能」に加えて、「組合員からの受注機能」の1次開発を完了しました。この機能は、組合員が自分のスマートフォンなどから肥料・農薬などをJAに注文する「組合員によるオンライン注文」や、JA職員がタブレット端末を操作して商品の検索や組合員から受注する「JAによるモバイル受注」に対応しています。

現在は先行モデルJAでのテスト利用を行っています。今後はテスト利用の結果を踏まえ、必要なシステム対応や手続きの整理を行った上で、組合員の利便性向上に貢献するべく導入に向けた取り組みを進めます。



画像イメージ①(トップページ)



画像イメージ②(商品詳細)

全農インターナショナル香港

香港・マカオで日本産農畜産物の販売拡大を目指す 日本産米飯の供給やECショップも展開



現地のスタッフ



香港でのサツマイモの袋詰め



各産地のサツマイモのラベル

全農インターナショナル香港は、日本産農畜産物の販売拡大を目指し、香港を主な営業拠点として2018年に設立されました。昨年はマカオに支店を設立し、現地での営業活動を拡大しています。

今のコロナ禍においては日本と香港間での往来が難し

いですが、コロナ前は年間220万人以上の香港からの観光客が日本のあらゆる地域を訪問していたこともあり、香港の街中には日本産品があふれています。それだけに、競争も激しくただ、おいしいというようなセールストークではバイヤーに響かないのはもちろん、サイズや形に加え、その商品の背景まで説明できるようでなくは成約しない厳しい市場です。だからこそ、現地法人の役割があり農家組合員・JAの皆さまに代わって説明ができるよう日々勉強しながら商談しています。

そのような環境ですが、JAグループだからできる試みとして、各産地のサツマイモを香港で袋詰めして産地リレー出荷を開始し、大

変好評です。今後は多品目にも広げていきたいと考えています。また、お客さまと直接つながりを持てるECショップ(JASHOPHK)を運営し「100箱のブドウを贈答用に準備してほしい」といったオーダーにも対応しています。

その他、現地の大手食品企業と共同で日本米炊飯センターを稼働させ、日本米のおいしさを前面に出した弁当の販売事業も取り組んでいます。今後は飲食店や学校給食にも日本産の炊飯米が供給できないか検討しています。

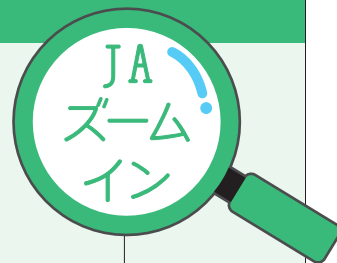
今後も農家組合員の皆さまの期待に応えられる販売拠点として、営業活動を強化していきます。

スタッフに聞く イチオシ現地食

サンドイッチといえば、タマゴサンドやカツサンド、そして最近「萌え断」で話題のフルーツサンドだと思いますが、香港ではいろいろな組み合わせのサンドイッチを提供するレストランがあります。今回、紹介したいのは香港の「茶餐廳(※)」でしか食べられないコンビーフとチーズのサンドイッチ。塩気のあるコンビーフがチーズのまろやかな味と交わり、何枚でも食べられそうなおいしさです。せっかくなら1ドルプラスして烘底(ホットサンド)にしてみたいですね。ドリンク付き35ドル(約520円)で午後のおやつにおすすめです。

※茶餐廳：香港・マカオの都市で一般的な、喫茶・軽食を兼ねた飲食店のこと





組合員とJA双方の視点から

営農活動の効率化、高度化を目指す

JAみづま (福岡県)



概要		令和3年3月31日現在
正組合員数		1289人
准組合員数		1342人
職員数		54人
販売品取扱高		12億6千万円
購買品取扱高		6億9千万円
貯金残高		182億7千万円
長期共済保有高		485億6千万円
主な農畜産物		イチゴ、タマネギ、米、 麦、大豆、ハトムギ

JAみづまは福岡県久留米市の南部に位置し、管内の三猪町では振興作物として、野菜ではイチゴやタマネギなど、米穀では米、麦、

大豆、ハトムギの栽培が盛んに行われています。

営農活動を支援するクラウドサービスの活用

JAいちご部会ではICT（情報通信技術）促進を意識し、クラウドサービスを活用した、組合員とJA担当者の営農活動の効率化と高度化に取り組んでいます。

同部会の組合員とJA

担当者はこれまで、栽培計画や栽培記録のような管理情報、また、台風対策のような急を要する情報提供を、紙面配布と電話連絡で行っていました。タイムリーさを要求される情報収集と情報提供に手間と時間がかかることで、組合員とJA担当者の負担となり、営農活動の効率化を阻害していました。

そこで、組合組織向けに設計された営農活動

を支援するクラウドサービス「あい作」を導入しました。「あい作」

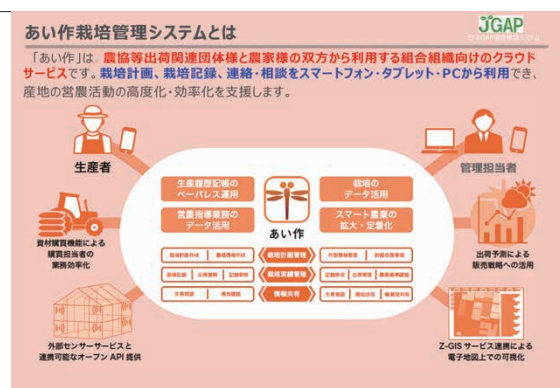
タブレット端末を使って情報を送るJA職員

は組合員とJAの間で行われる業務に沿ってシステム化されており、新

「圃場の見える化、 産地の見える化」で 質の高い販売活動を

「あい作」導入から日が浅いので、営農活動高度化の面では課題が残ります。今後は情報共有の容易さを

生かし、「圃場の見える化、産地の見える化」を実現します。この「見える化」により、産地情報と事前出荷情報を網羅的に把握できるようになり、より正確で質の高い販売活動が可能になり、営農活動の高度化にもつながります。



講習会で「あい作」の使用方法を学ぶ生産者



「高知県産ゆず&直七サワー」新発売



JA高知県、国分グループ本社(株)と共同開発

全農は、JA高知県、国分グループ本社と「高知県産ゆず&直七サワー」を共同開発しました。三幸食品工業(株)で製造し、2月23日に発売しました。高知県産「ゆず」と「直七」のストレート果汁を5%使用、アルコール度数を4%とし、直七の爽やかな酸味とユズがやさしく香る風味に仕上げました。【営業開発部】

ユズは奈良時代から栽培される歴史の古い柑橘で、高知県は生産量が日本一の産地です。直七は広島県尾道市田熊で発見された柑橘で、正式名称は田熊スダチです。高知県の南西に位置する幡多地区で主に栽培されており、特に宿毛市では魚料理に欠かせな

い食酢として古くから人々に愛されてきました。

この商品は果皮表面のキズなどによって青果として市場流通に適さないユズや直七を使用することで、生産者の所得安定につなげたいという思いで開発しました。高知県の特産品である2種類の柑橘が調和した香り高い味わいになっています。

関西・中四国・九州エリアのセブンイレブン約6800店で販売しています。また、セブン&アイグループのヨークマート、ヨークフーズ、シェルガーデン、イズミ、天満屋ストアの一部店舗での販売も予定しています。



※店舗により、取り扱いのない場合があります。

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

3月5日放送のプレゼントは、「佐賀県産 ホワイトアスパラガス」です。国産では全国でもあまり栽培されていないホワイトアスパラガス。その中でも佐賀県産のえりすぐりの太さのホワイトアスパラガスを準備しました。

ゆでてそのままでもおいしいですが、焼いたり天ぷらにしたりして食べるのもお勧めです。春の旬な食材を、この機会にぜひご賞味ください。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。

【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは3月5日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

この商品はここからご購入いただけます。

JAタウン
ショップ名

さが風土館 季楽



JA全農のインターネットショッピングモール

JAタウン ショップ紹介

JA紀南

2010年に品種登録された「まりひめ」は、和歌山県オリジナル品種のイチゴです。和歌山県の民芸品「紀州てまり」のようにかわいらしく、みんなに愛される品種となることを願って命名されました。

大きくきれいな円すい形の果実は、光沢のある鮮やかな赤色。果肉も赤色を帯びていて、甘味が強く、適度な酸味があってジューシーです。

ファーマーズマーケット紀菜柑の店長が自信をもってお届けする「まりひめ」を、ぜひご賞味ください。



【紀菜柑】和歌山ブランド まりひめ 2パック入り
.....3350円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。